



1章 浦添のめざす姿

浦添の都市像

てだこの^{ま ち}都市・浦添

「てだこ」とは、英祖王の神号「英祖日子」にちなんだものです。英祖王は、かつて牧港という天然の良港を拠点に、海外との貿易を通じ、いち早く新しい文化を取り入れ、国を開き、治め、栄えたことから「国王の生まれ出ずる国」と古謡オモロでうたわれるほどに浦添の名を高めた人物です。

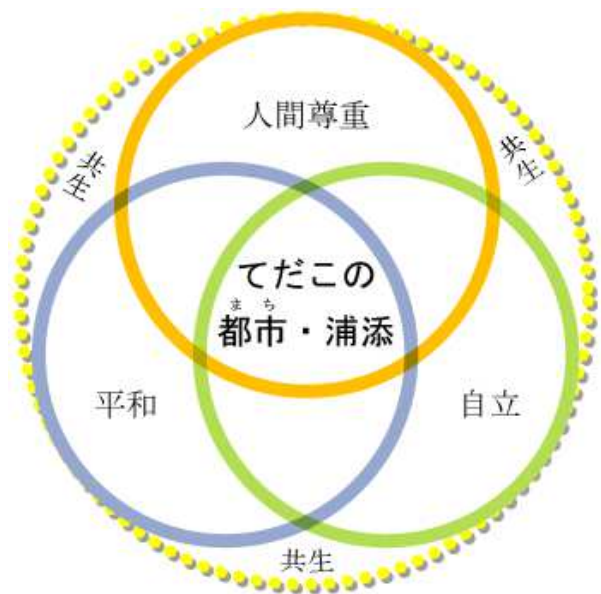
私たちは、英祖王のすぐれた実績を学ぶとともに、すべての市民の人間としての幸せを願い、永遠なる発展力を保持していきたくと願います。

そのような願いをこめて、私たちは浦添の都市像を“てだこの^{ま ち}都市・浦添”と呼ぶことにします。

“てだこの^{ま ち}都市・浦添”それは、私たちのめざす理想の都市像です。

私たちは、その姿を実現していくために、「人間尊重」・「自立」・「平和」をまちづくりの基本理念とします。

そして、新たな息吹を吸収しつつ、市民一人ひとりが手を取りあい、地域に対する誇りと地域を愛する心を育み、自然の摂理と個性ある歴史・文化を活かし、生きとし生けるものと共生した、平和で豊かな住みよいまちづくりを進めます。



「てだこ」は、沖縄の方言で「太陽の子」を意味し、「太陽」を「ティーダ」、「子」を「クワァ」と発音します。太陽は衰退することなく、日々、東方の水平線から力強く昇り、闇を切り開き、世界を明るく照らし、生きとし生けるものに新たな息吹を与え、万物を活性化させます。